

## 協力校としての取組

阿賀野市立安野小学校

### 【はじめに】

本レポートは、学習指導改善調査事業協力校の委嘱を受け、今年度の校内研修の取組を核に、学習指導改善調査の結果から見える成果・課題も踏まえながら全校体制で取り組んできたことを紹介するものである。よって、研究主題における「めざす子どもの姿」や「めざす授業の方向性」を全職員で共通理解して取り組んできたことをベースに、学習指導改善調査結果も含む児童の実態を改善すべく取り組んできた一連の活動である。

### 1. 研究主題

「分かった」「できた」と実感できる子どもの育成（2年次）  
～学び合いを活かした活動を通して～

### 2. 主題設定の理由

#### （1）児童の学びの姿勢から

昨年度、『「分かった」「できた」と実感できる子どもの育成（1年次）～学び合いを活かした活動を通して～』を研修テーマに、一人一授業研究を通して、実践を積み上げてきた。どの実践にも、子どもたちが課題に対して真剣に取り組み、友達同士のかかわりや授業者の支援を受けながら課題解決に向け、粘り強く取り組む姿が見られた。また、ペアまたは小集団での話し合い活動、全体での検討場面で自分の考えを表出したり、再思考したりする姿も見られるようになってきている。

#### （2）昨年度の研究成果と課題から

昨年度の校内研究では、次のような成果と課題が明確になった。

#### 【成果】

○児童の実態や課題やその後の全体検討の過程によっては、自力解決を経ずに小集団解決により、全体で練り上げていくことも有効である。

学級の実態によっては、課題解決に対し自力解決が難しかったり、多くの時間を費やしたりしなければならないことがある。また、自力解決に多くの時間を費やしても低位の子にとって有効な時間になるとは限らない。逆に、その分の時間を全体検討で充実させることで、個々の思考の深まりが可能になることもある。そして、課題提示の後に、自力解決を経ずに全体で見通しをもたせた小集団の解決も、有効な全体検討につながる実践もあった。また、その時間に獲得した知識(小集団や全体検討により)を、終盤に「自力解決」で個の力を試すことも有効であった。つまり、授業のねらいや、本時での有効な学び合いによっては、「自力解決」を適用問題に取り入れたりすることも有効である。

○学び合いをさせる前に、学び合うことの必要性や意図を子どもに示すことで、児童は、「関わろう、話そう、聞こう」という意識をもち、全体検討が充実したものになる。

これは、一昨年度の課題であった。「隣の人に説明しましょう」「班で話し合いましょう」だけでは、単に「話せばいい」「聞けばいい」という意識にしかならない。

昨年度は、学び合い活動をさせる前に「自分と同じ考えか違う考えか後から聞くよ」「班全員でみんなの前で説明してもらおうよ」という指示がある実践が多かった。それにより学び合いの個々の参加意識が変わる。聞くこと・話すこと・関わることの必然性が出てくるからである。

授業者は本時の中で、「どの場面で」「何のために」学び合い活動を取り入れるのかのビジョンをもつことで、子どもの「他から学ぼう」とする姿が見えてくることが明確になった。

### 【課題】

●「学び合い」には、個々の伝える力が必要である。

「学び合い」が成立するためには、子どもの自分の考えを伝える力が不可欠である。当校の児童の実態として、全体的に「話す力(語彙力)」「伝える力(筋道立て)」の未熟さが感じられるのは否めない。これは、研究というより教育活動全体を通して日々の実践から地道に積み上げていくことが大切である。低学年においては、特に「話型」を示すことで話しやすくなることが多い。学級の実態及び本時で求める説明レベルによっては、教師側からある程度「話型」を示すことも必要になる。

●「分かった」「できた」と実感させるには、教師の整理や導きが必要である。

今年度の研究主題は「分かった」「できた」と実感させる子を育成することにある。学び合いは目的ではなく、それを実現するための手段である。その有効な手段を含め、やはり大切なことは、上述した見通しをもたせることの他に、教師の指導内容のポイントを教えることも必要ではないかと考える。やらせっぱなしの授業はなかった。しかし、全体検討の場面または終盤のまとめの段階での「押さえ(これは習得してほしい事項)」がやや弱かった授業も見受けられた。子どもの「そういうことか」「こうすればできるんだ」「分かったぞ」という声があがる授業を、今後も目指していかなければならない。

上記の【(1) 児童の学びの姿勢】、【(2) 昨年度の研究の成果と課題】から、学習課題に対して前向きに取り組む児童が増えてきているという成果が見られる反面、子ども達どうしのかかわり方・話し合い・教え合いの姿から、一方的なかわりや、不十分な話し合いになってしまう感がある。また、子ども同士のかかわりにおいて、その目的(話し合うための視点)が明確でないがために、「何が分かったのか」「友達から何を得たのか」という点が曖昧であった。

そこで、「分からないことを聴き合い」という狭い窓口ではなく、考えを交流し合う中で互いの思考を深めていく当校の「学び合い」を通して子ども達が「分かった」「できた」と実感できる授業構想を展開する必要があると考えた。

### 3. 学習指導改善調査の結果から

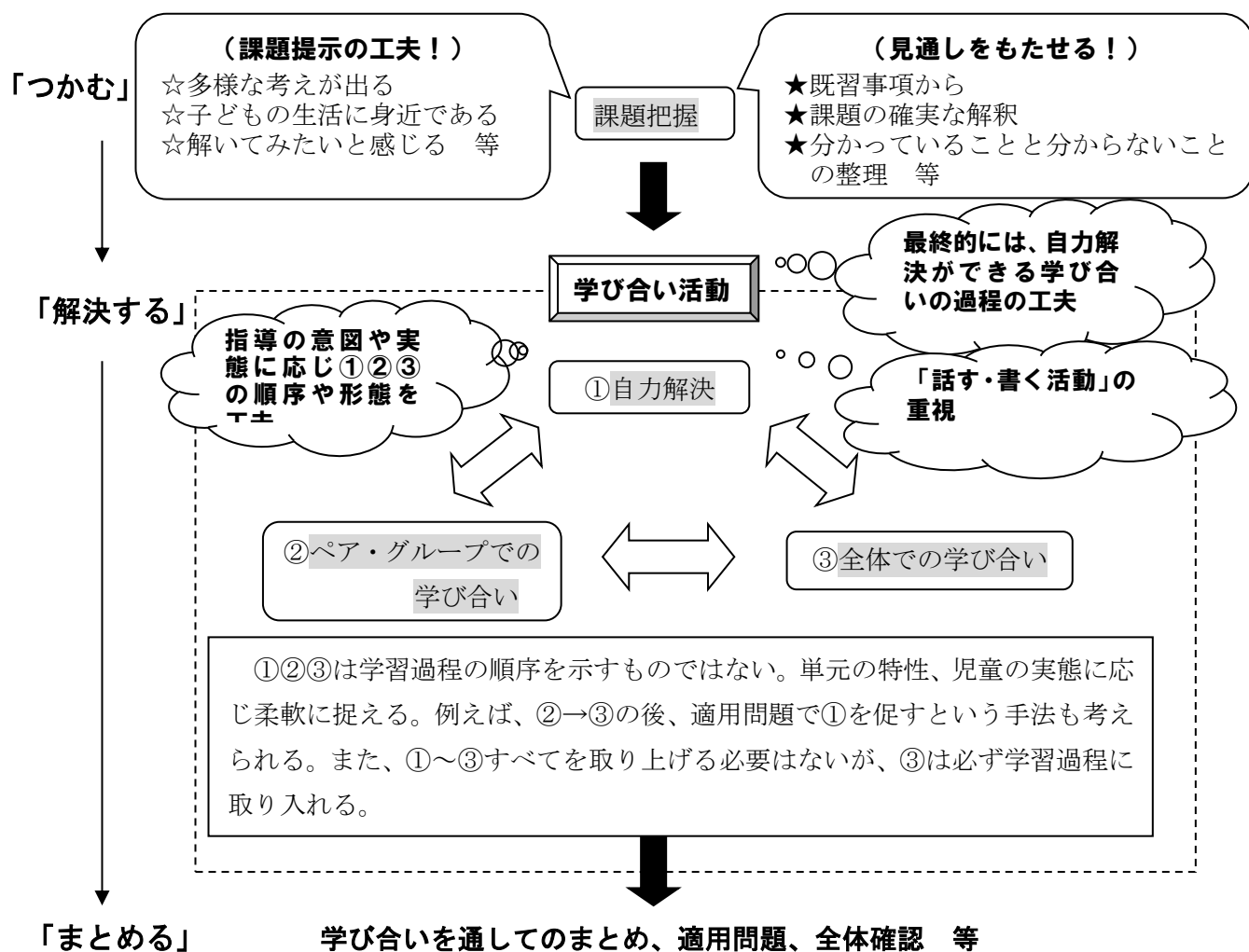
当校では、本調査の結果を学級単位で分析した。主に、「各教科の正答率の県比較」「県比較で10ポイント以上上回った問題、下回った問題の洗い出し」「今後の授業改善に向けての取組の明確化」を行い、冊子にして全職員に配布し、校内研修と合わせて全校体制による取組にすることを共通理解した。

ここでは、研究教科の算数における各学年・学級の授業改善に向けての取組を簡単に記す。

| 学年・組 | 授業改善に向けての今後の取組                                                                                                            |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4年1組 | 10%以上下回った問題はないが、個人差が大きいので、少人数指導や個別指導などで底上げを図る。合わせて、かかわり合って学ぶ学習形態を重視した授業を積み上げる。                                            |
| 5年1組 | <b>【分数のひき算1】</b><br>・式の意味を理解させ、書く活動をたくさんして、説明する力を育成する。<br><b>【面積2】</b><br>・図形の性質を関連付けて、作図ができるようにする。キーワードに慣れさせ、説明する力を育成する。 |
| 6年1組 | 10%以上下回った問題はないが、個人差が大きいので、少人数指導や個別指導などで底上げを図る。合わせて、かかわり合って学ぶ学習形態を重視した授業を積み上げる。                                            |
| 6年2組 | <b>【小数のかけ算・わり算1】</b><br>・言葉・数・図を結び付け論理的に説明できる力を育成する。<br>問題場面や数字が変わっても、図を使うと演算の決定がしやすくなることを実感できるようにさせる。                    |

#### 4. 研究主題と学習指導改善調査の結果からの授業の方向性

##### (1) 研究主題の具体化



#### 5. 実践の概要

##### 【4 学年の実践】

1 単元名 「垂直・平行と四角形」

2 本時の指導 8 / 13 時間

##### (1) 本時の目標

◎ 平行四辺形の作図の仕方を考え、説明する。

##### (2) めざす子ども像（学び合いの視点から）

○ 既習の角のかき方や平行四辺形の特徴、平行の作図の仕方を活用して、平行四辺形のかき方を考えることができる。

○ ペアで説明し合うことで作図の仕方・定義を定着する。

##### (3) 学び合いのポイント

前時まで、平行・垂直な直線のかき方、それを利用しての長方形の作図、台形や平行四辺形の定義、平行四辺形の特徴（向かい合う辺の長さ、角の大きさが等しいこと）について学習している。

本時では、角のかき方、平行四辺形の特徴（向かい合う辺の長さや角の大きさが等しいこと）、平行四辺形の定義（向かい合う2組の辺が平行であること）を活用して、平行四辺形のかき方を考え、定着させることが必要である。そのために、まず、自由に平行四辺形をかかせる。何も指定がないので、戸惑うことが考えられる。そこで、平行四辺形の定義と特徴を確認する。次に、指定された形の平行四辺形をかかせる。まず与えられた条件(2辺と間の角)を定規と分度器でかき、その後のかき方を各自考える。2組の平行な辺をかく方法、コンパスで2つの辺の長さを使ってかく方法が考えられる。ペアで説明し合い、全体で共有する。その際、なぜその方法でかくことができるのか根拠を説明させ、平行四辺形の定義を定着させる。最後に適用題で定着を図る。

#### (4) 主な学習活動

| 学習過程  | 分  | 主な学習活動                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1つかむ  | 5  | <p><b>自由に平行四辺形をかく</b></p> <p>T 平行四辺形をかきましょう。大きさ、向きは自由です。(無地の用紙)</p> <p>C 平行2組でかけるよ。</p> <p>C どうすればいいのかな。</p> <p>T 平行四辺形になるためにはどんな条件が必要でしょう。</p> <p>*定義(向かい合う辺が平行), 特徴(向かい合い辺の長さ・角の大きさが等しい) 確認</p>                                                                    |
| 2解決する | 18 | <p><b>形が指定された平行四辺形をかく</b></p> <p>T 今日は平行四辺形のかき方を考えます。まず、どこをかきますか。</p> <p>C 辺BC(5cm)と70°の角B, 辺AB(4cm)</p> <p>T 続きのかき方を考えましょう。(ワークシート①) かいた順番が分かるように番号や記号、数字をかき入れましょう。</p>                                                                                             |
|       | 15 | <p>C (個人で作業する、早くできたら他の方法も考える。) T<sub>2</sub> (自力解決困難な子の支援)</p> <p>T 隣の人に説明しましょう。自分のやり方と同じか違うか考えながら聞きましょう。</p> <p>C (ペアで説明し合う。実際に使った用具を使って説明させる。)</p> <p>T 代表に発表してもらいます。(机間巡視でチェックしておいて指名。教材提示装置。)</p> <p>全体で共有する。</p> <p>T 平行四辺形の何を使ってかいたのでしょうか。(平行四辺形の定義や特徴の確認)</p> |
| 3まとめる | 7  | <p><b>適用題で定着を図る</b></p> <p>T 平行四辺形の性質を使うと平行四辺形がかけますね。練習問題に挑戦しましょう。</p> <p>C (適用題に挑戦する。)</p>                                                                                                                                                                          |

### 3 協議の視点

- (1) はじめに自由な平行四辺形をかかせたことは、その後の指定された平行四辺形のかき方を考える上で有効であったか。
- (2) 自力解決する→ペアで説明し合う→全体で共有する→なぜその方法でかけるのか説明する→適用題を解くという学習過程は、平行四辺形のかき方や定義を定着させる学び合い活動として有効であったか。

### 4 授業後の考察

#### 視点①

はじめに自由な平行四辺形をかかせたことは、その後の指定された平行四辺形のかき方を考える上で有効であったか。

#### (成果)

- 自由な平行四辺形をかくことにほとんどすべての子が戸惑いをもった。「できない」という困り感が共通の課題となり、学習意欲につながった。

○ この段階でかけた子にとっては、その後の見通しと自信につながった。

(課題)

- 協議会では、平行な直線をかこうとしていたが、手立てとして有効であるというよりは、思考の流れの一つとなったという意見が出された。
- 前時までの平行四辺形の定義や条件を教室掲示物を示したりして振り返ったが、不十分であった。教師がまちがった図形を描いて見せてどこが違うのか言わせるといような手立てをとることで、もっと共通理解を図ることができたと考えられる。

視点②

自力解決する→ペアで話し合う→全体で共有する→なぜその方法でかけるのか説明する→適当題を解くという学習過程は、平行四辺形のかき方や定義を定着させる学び合い活動として有効であったか。

(成果)

- ペアでの説明は、かけずに困っている子にとっては有効であった。また、かけた子にとっても自分の考えと比べて聞くことで聞く必然性があり、ほかの考えを知る機会につながった。

(課題)

- ペア学習の経験が乏しく、交流を見取ることが難しかった。
- ペアがどちらもできていなかった場合、機能しない。グループなど、少し人数が多い方がより有効だった。
- 学び合いの場の位置づけを考える必要がある。できない子とできる子の学び合いを促すという意味で、自力解決の場で交流することも有効である。

## 【6 学年の実践】

### 1 単元名

「比例と反比例」

### 2 単元の目標

比例、反比例の意味を知り、その性質やグラフについて理解する。

### 3 指導計画（全 16 時間、本時 8 時間目）

| 次 | 時  | 主な活動                                 | ○留意点 ※評価                                                               |
|---|----|--------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 1  | ・ 伴って変わる 2 つの数量の関係を調べる。              | ○ 日常の事象における二つの伴って変わる数量の関係をとり上げる。<br><br>※ 比例関係を表・式・グラフを用いて判断することができたか。 |
|   | 2  | ・ 比例の定義と性質を理解する。                     |                                                                        |
|   | 3  | ・ 比例する事象を判断する。                       |                                                                        |
|   | 4  | ・ 比例の式を理解して表す。                       |                                                                        |
|   | 5  | ・ 比例のグラフのかき方と特徴を理解する。                |                                                                        |
|   | 6  | ・ 比例の事象を式に表し、グラフを書く                  |                                                                        |
|   | 7  | ・ 比例のグラフを読み取る。                       |                                                                        |
|   | 8  | ・ <b>表をもとに式・グラフを書いて、比例かどうかを判断する。</b> |                                                                        |
|   | 9  | ・ 練習問題をする。                           |                                                                        |
| 2 | 10 | ・ 比例関係を利用して、全体のおよその数を求める。            | ※ 比例関係を用いて問題を解決することができたか。                                              |

|   |                            |                                                                                                                                                                  |                                 |
|---|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 3 | 11<br>12<br>13<br>14<br>15 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・反比例の定義と性質を理解する。</li> <li>・反比例する事象を判断する。</li> <li>・反比例の式を理解して表す。</li> <li>・反比例のグラフの特徴を理解する。</li> <li>・練習問題をする。</li> </ul> | ※反比例の関係を表・式・グラフを用いて判断することができたか。 |
|   | 16                         | ・評価テストをする。                                                                                                                                                       |                                 |

#### 4 本時の指導

##### (1) 本時のねらい

ともなって変わる二つの数量の関係について、表をもとに式・グラフを書いて、比例しているかどうかを判断することができる。

##### (2) 本時における学び合い

###### ①めざす子ども像

◎ 表をもとにして式・グラフを書き、それらを根拠にして「～だから比例している・していない」と言える子ども

###### ②学び合いの手立て

- ・ 自力解決がスムーズに進むように、前時までの学習内容を短時間でふりかえる。
- ・ 自力解決では、自信をもって取り組めるようにペア学習で確認しながら解決する。解決が難しい児童には、個別支援を行う。
- ・ 自力解決の後、グループで検討を行う。お互いの考えを比べたり、分からなかったところを補い合ったりして、問題を解決する。
- ・ 最後に全体で確認し、気づかなかった視点があれば共有する。
- ・ 自分の考えを表現し、友達と考えと比べるためのツールとして、一人2枚のホワイトボードを用いる。(B4 白紙・グラフ用紙をラミネートしたもの)

##### (3) 展開

| 学習過程        | 分  | 学習活動 (教師の働きかけ 児童の意識・思考)                                                                                                                                                                                                                       | ○指導の留意点 ◆評価                                                                                |
|-------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 振り返る        | 5  | <div>前時までの学習を振り返</div> <p>T: 比例とは、①表で2倍・3倍…になること<br/>②式で<math>y = \text{決まった数} \times x</math>で表せること<br/>③グラフに書くと、0を通る直線になること</p>                                                                                                             | ○フラッシュカード、壁の掲示物を利用して比例の定義を振り返り、①～③になっていれば比例していることをおさえる。                                    |
| つかむ         | 3  | <div>課題を把握する。</div> <p>T: 今日の学習は「式とグラフを書いて、比例かどうかを判断する」です。<br/>次の問題1を読みましょう。<br/>C: 「次の絵を見て、伴って変わる2つの量を見つけましょう。」<br/>T: 増えていくのはそれぞれ、何と何ですか。<br/>C: はがきの枚数と全部の重さ<br/>T: はがきの枚数を <math>x</math> 枚、全部の重さを <math>y</math> gとして、プリントの表を書きましょう。</p> | ○それぞれの場面と条件(数値)を全体で確認する。<br><br>○表は0枚、0gの欄からスタートすることを確認する。                                 |
| 解決する<br>(1) | 10 | <div>ホワイトボードに調べ方を書いて、解決する。</div> <p>T: ホワイトボードに式やグラフを書いて調べましょう。調べたら、比例するかしないかと、その理由も言葉で書きましょう。<br/>C: 比例している。<br/>C: 表の <math>x</math> が2倍3倍…になると <math>y</math> も2倍3倍…になっている</p>                                                             | ○ホワイトボード2枚、ペン、字消しを配付する。<br>○隣同士で相談して解決してもよいことを伝える。自力解決が難しい子どもには、個別支援を行う。<br>◆比例の式・グラフを書くこと |

|             |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                               |
|-------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             |    | <p>る。</p> <p>C: 表の数字を見ると、きまった数は3で、<math>y = 3 \times x</math>の式で表せる。</p> <p>C: 表の数字をグラフに表していくと、0を通る直線になる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <p>ができる。</p>                                                                                                                                                                                  |
| まとめる        | 8  | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">答えを検討す</div> <p>T: ○時○分になったら、グループで相談してください。班長さんは司会をしてみんなの考えを比べて答えをはっきりさせてください。</p> <p>C: 書き方がわからなかったけど○○さんのものを見て分かった。</p> <p>C: 比例している。訳は、<math>y =</math>決まった数の<math>3 \times x</math>の式で表せるし、0を通る直線のグラフになるから。</p>                                                                                                                                                                                | <p>○グループ全体で、比べ合い、結論が言えるようにする。</p> <p>○代表を数名指名し。ホワイトボードを黒板に掲示して、発表させる。</p> <p>◆友達のと比べ、自分の考えを確かめたり、修正したりしている。</p>                                                                               |
| 解決する<br>(2) | 15 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">練習問題に取り組</div> <p>T: プリントの問題2に答えましょう。</p> <p>次の場合、ともなって変わる2つの量は比例しますか、しませんか。表・式・グラフを書いて調べましょう。答えが分かったら、理由も書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">問題2</div> <p>「3歳はなれている、妹と兄の年齢。」</p> <p>C: 比例していない。</p> <p>C: <math>x</math>が2倍3倍…になっても、<math>y</math>が2倍3倍…になっていないから。</p> <p>C: <math>y = x + 3</math>になり、比例の式にならないから。</p> <p>C: グラフは0を通っていないから。</p> | <p>○自力解決が難しい子どもには、個別支援を行う。</p> <p>○表の数値は、全員で確かめる。</p> <p>○早い段階からグループで相談させ、考えを伝え合いながら解決できるようにする。</p> <p>○プリントを書き終わった子にはホワイトボードにも書いて友達と考えを比べ合えるようにする。</p> <p>◆表・式・グラフを書き、問題の答えと理由を書くことができる。</p> |
| 振り返る        | 4  | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">感想を書く。</div> <p>T: 今日の学習の振り返りを書きましょう。</p> <p>C: 年齢は比例すると思っていたけど、グラフに書くと違うことが分かった。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <p>○振り返り用プリントを配付し、評価と感想を書く。</p>                                                                                                                                                               |

#### (4) 協議の視点

- ① ホワイトボードを使用することによって、児童は自分の考えを表現していたか。
- ② 友達と自分の考えを比べることによって、表・式・グラフを根拠にして比例関係を正しく判断することができたか。

#### 5 授業の考察

**視点①** ホワイトボードを使用することによって、児童は自分の考えを表現していたか。

##### (成果)

- ・ ホワイトボードは、書くことや書き直すことが容易で、児童たちは自分の考えを書くことができた。
- ・ 無地のものと、グラフ用のものを一人に2枚用意したのは画期的だった。
- ・ グループ内交流では、自分のホワイトボードを見せ合いながら話し合いを進めていた。



##### (課題)

- ・ B4サイズのホワイトボードは小さかった。A3が妥当。全体交流でも見づらい。

- ・ 式やグラフは書けたが、説明の言葉を書いた児童と書かなかった児童がいた。「考えを表現する」とは何をどのように書くのか、その表現のさせ方も指導が必要。

**視点②** 友達と自分の考えを比べることによって、表・式・グラフを根拠にして比例関係を正しく判断することができたか。

(成果)

- ・ 教室に掲示されている既習事項の掲示物を参考にして考え、それと友達の考えを比べて交流していた。交流することによって、自分の考えを補強したり、修正したりする児童の姿が見られた。
- ・ 自分の答えと、友達の答えを確かめ合う場になっていた。
- ・ ペアやグループで話し合いが行われ、それぞれが機能して学習が進められた。



(課題)

- ・ 書いたことを伝えあうことはできたが、根拠を話し合うまでには至っていなかった。
- ・ 全体で交流する場面では、児童の言葉を吸い上げ、また児童に返すことが少なかった。
- ・ 表・式・グラフの3つを扱うことは難しかった。一人一つにしぼって根拠を明確にする活動でよかったのではないか。

## 6. 校内研究としての成果と課題（今後の研究として共有できるもの）

### 成 果

個や小集団の思考の跡を残すワークシートやホワイトボード等を効果的に活用することは、その後のペアや小集団での考えの交流（学び合い）には有効であり、かつ全体検討をする場でも活用できる。

どの研究授業でも、自力解決や小集団解決の場面で、思考の跡を視覚的に残せる工夫がなされていた。特に、ワークシートやホワイトボード（ラミネートされた方眼紙）、等を効果的に使用していた授業が目立った。文章や図、式などを書き込み、個やペア、グループでの考えを交流できるものとして主に活用されていた。また、裏にマグネットがついているので、全体での検討場面では、黒板に貼り付け、全員で考えを共有し合う場面に有効に活用された。また、操作の仕方を全員で確認することができる実物投影機なども今後の様々な学習活動に生かしていけるものである。

**ペアや小集団での考えの交流は、全体検討（交流）には不可欠なものである。**

班またはペア交流のメリットは、少人数であるために「大勢の友達の前よりも自分の考えを表出しやすいところ」、「思っていることや分からないことを話したり、聴いたりしやすいこと」などがある。昨年度同様、今年度の実践にも、ペアまたは班での交流が行われていた。特に、当校のような、「全体的に学力が高くない」「個々の話す力は発展途上」という実態においては、一層大切になってくる学習活動（形態）と言える。また、どの学級もだれとでも協力できる雰囲気があるため、小集団で話し合わせる活動は、「自分の考えを伝える」、「相手の考えを聴く」には、とても有効に機能すると考える。こうして、ペアや小集団での考えの交流が充実することで、その後の全体検討（交流）での児童の思考の広がりや深まりが期待できる。

## 課 題

自力解決・小集団解決の前段に「解決の見通し」をもたせることが大切である。

いきなり「やっpegらん」で解決できる子ばかりではない。問題解決場面の前に、例えば次のような教師の働きかけがあれば、個々や集団の思考の手助けになると考える。

- ・「□□□は、今まで学習したことの中で何を使えば解けそうかな？」
- ・「△△△は、～ことですね。だから○○○と考えれば解けそうですね。」
- ・「◇◇◇が分からないのだから、～と～から考えればいいですね。」

もちろん、すべて教えることで、逆に解き方や答えを教えることになってはいけなが、大切なのは、解決の見通しをもたせることである。そうすることで、特に自力解決の時間を保障しても、結局何もできなかったという子は減少すると考える。

児童のかかわり合うためのスキル(コミュニケーションスキル)を指導することが必要である。

「学び合い」が成立するための要件として、相手に自分の考えを分かりやすく伝える力が必要である。当校の児童の実態として、全体的に「話す力(語彙力)」や「伝える力(筋道立て)」に弱さが見られる。また、自分の考えを短い言葉で分かりやすく書きまとめる力も弱い。これは、研究というより教育活動全体を通して日々の実践から地道に積み上げていくことが大切である。ペアやグループ、全体で話し合う時に、自分の考えを分かりやすく伝えるためには、どのように話せばよいのか。また、どんなことをどんな言葉で質問し、どんな言葉でどのように答えればよいかといったことをスキルとして児童に身に付けさせることが必要となってくる。

児童の発言を拡散したり収束したりして考えを深めさせるような教師の授業力を磨くことが大切である。

グループの話し合いで出てきた考えや意見が全体場で発表されたものを、またグループへ返し確認させたり探究させたりすることで児童の学びの質は高まる。児童がつまずきやすいポイントをあらかじめ想定しておく。また、それを焦点化するには、どのような取り上げ方や投げ方をするのかを事前に考えておくことが大切となってくる。

## 7. 来年度の研究の方向性

### (1) 主題について

「学び合い」を中核に据えた研究主題を提案する。(今年度の主題・副題は継承する)

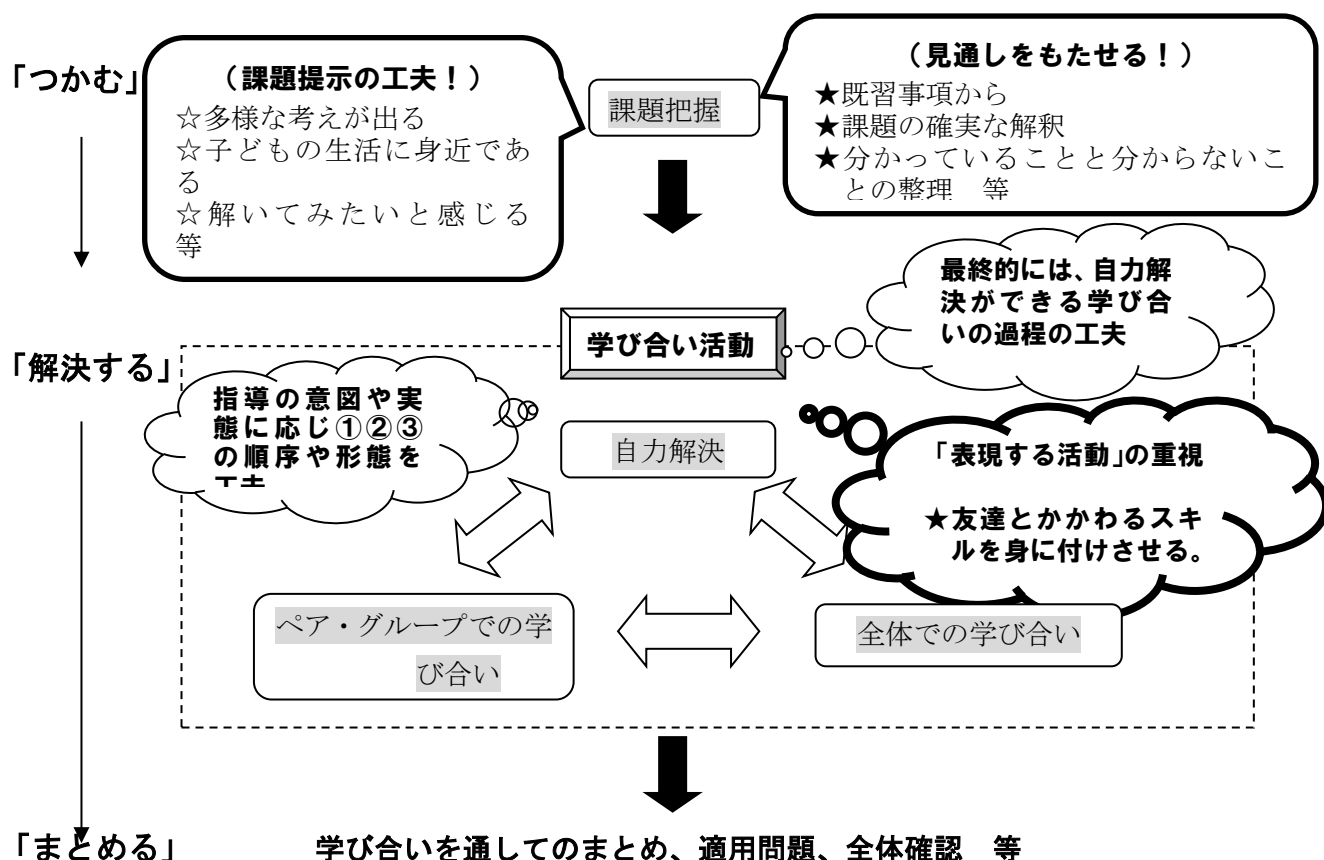
「分かった」「できた」と実感できる子どもの育成(3年次)

～ 「学び合い」を活かした活動を通して ～

ここ数年の研究の取組の成果により、どの学級の子どもたちも課題解決に向け、ペアや小グループによる活動を友達と協力して行えることが徐々にではあるが、できるようになってきている。また、その際、ホワイトボードやワークシートなどの媒介物を介しての友達との考えの交流が行えるようにもなっている。しかし、自力解決で得られた児童個々の考えが、「学び合い」による学習活動を通して十分深まっていはいない。それは、研究の課題にもあるように、友達とかかわり合うためのスキルが十分身に付いていないためである。

そこで、来年度は、子どもたちの発達段階にあった「**友達とかかわるためのスキル**」を日々の授業の場面で計画的・継続的に指導し、「学び合い」の場が充実し、子どもたちが授業時間の中で「分かった」「できた」と実感できるように特に以下のことを併せて大切にしてい取り組んでいく。

- ① 年間を通して、主体的・協働的な学習をつくりあげる。(例：目指す授業像の掲示)
- ② 友達と話し合う際に培いたい力や具体的な話し方や聞き方などのマニュアルを作成し、計画的・継続的に指導する。
- ③ 多様な考えが出るような課題を作成したり、提示の仕方を工夫したりする。
- ④ 自力解決前の見通しをもたせる場面を大切にする。
- ⑤ 学び合いが見える黒板にする。(板書計画)



## (2) 研究教科について

**算数科に限定する。**

ここ数年、研究教科は算数である。来年度は教科を変えてもいいのではというご意見もある。しかし、資料を見ても、数値的な学力から国語よりも算数の方が低い。また、「学び合い」において多様な考えを小集団、全体で交流するのにも有効な教科であると考え。

また、今年度、4～6年生で少人数学習を行ってきた。来年度も少人数学習を取り入れる学年があれば、授業研究もその学習形態を参観していただくようにする。

## 8. 授業研究以外の全校体制での学力向上の取組

### (1) 家庭学習の啓発

#### ①家庭学習強調週間

学期末（7，12，3月）を除く月に、全校国語テスト・算数テストを実施している。学習の進捗や毎月のweb配信集計システムの内容を考慮し問題を作成している。その際、それぞれのテスト前4日間を、家庭学習強調週間としてテストに向けた課題を家庭学習で取り組ませている。今年度は、現時点で全校平均90%の児童が、4日間のうち、3日以上「学年×10分以上」の家庭学習に取り組んでいる。

#### ②家庭学習紹介コーナー

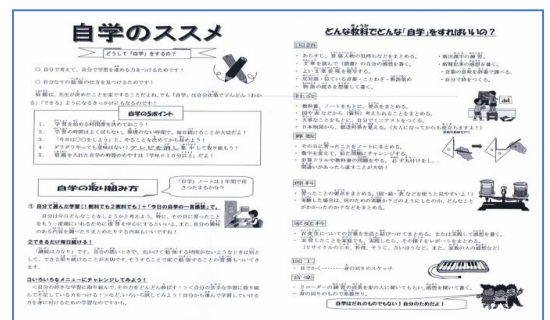
一昨年度途中から、家庭学習啓発の一環として設置した。知育部が担当し、2週間に1回更新するペースで、全学級の家庭学習の取組（プリントやノートのコピー）をホワイトボードに掲示している。また、掲示された取組についての知育部職員からのコメントを一緒に掲示している。自学を中心とした家庭学習になかなか取り組めない子の中には、「何をしていいかわからない」という子がいる。そのような子には、このコーナーにより、「見て真似る」ことからスタートできる取組が掲示されているので、とても参考になる。



だし算のマス計算をしています。算数の学習は「は・か・せ」（早く、簡単に、正確に）を目指します。マス計算で「は・か・せ」を鍛えていって下さい。

#### ③家庭学習の手引きの作成、配布

家庭への啓発（保護者への協力）のためには、「学校として取り組んでほしい家庭学習の約束や具体的な内容」について、子どもへはもちろん、保護者にも知らせる必要がある。そこで、年度初めに「自学のススメ」として家庭学習指導資料を作成し、全家庭に配布した。



### (2) 表現力向上のための発表の場の設定（発表朝会）

各学年の学習の成果発表を全校の前で紹介する場を「発表朝会」として設定している。内容は、各学年に一任されているが、「人前で大きな声で堂々と発表する」力（表現力）と積極性を養うことをねらいとしている。今年度の発表朝会の各学年の内容は次のものである。



1年生 歌と演奏、詩の群読



2年生 音読劇「スイミー」



3年生 詩の朗読、リコーダー演奏、合唱



4年生 合奏（市の音楽祭発表曲）



5年生 よきプレリーダーになるための劇



6年生 地域の歴史や偉人についての発表（総合的な学習の時間）

### （3）学校評価に係る学期ごとの「授業改善レポート」作成

先述したように、全学級担任が主題にそった研究授業を行っている。しかし、授業改善は単発的な実践では実現できない。そこで、学校評価の知育関係の観点を【今年度の授業改善の視点「学び合い・話し合い」に重点をおいた指導を学期2単元以上実践する】とし、個々の実践を学期ごとにレポートに集約し、冊子にして全職員に配布している。

また、本レポートは、学級担任だけでなく級外職員も作成している。担当している学年・教科において「学び合い」に関わる実践を積み上げ、全校体制での取組により個々の実践の蓄積・日々の指導の充実を目指している。

これまで取り組んできたことを大切な実践と捉え、今後も「分かった」「できた」と目を輝かせて学ぶ子どもの姿を実現するために、日々の授業を大切にしていく。

また、授業だけでなく当校の児童の実態に応じた、「家庭学習の習慣化」「表現力の育成」といった教育活動も充実させるために、評価・改善を加え、真の学力を身に付けさせていくために、全校体制で取り組んでいく。

| （1）学級知育部学校評価について                                                                                                     |     |    |               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----|---------------|
| 6年1組                                                                                                                 |     |    |               |
| ○成果の評価項目：「自分の考えを、相手に伝えることができる子が80%以上になる」                                                                             |     |    |               |
| ○教育活動の評価項目：「学び合いに重点化した学習活動を重点に位置付けた授業を全学級で2単元以上実施する」                                                                 |     |    |               |
| 教科・単元                                                                                                                | 取組① | 教科 | 単元「国づくりへの歩み」  |
| 1. 主な学習活動                                                                                                            |     |    |               |
| ①論議と時代を軸とし、明治時代の論議を2枚見せて、「どちらが新しい時代か」を個々に根拠を挙げて話し合う。                                                                 |     |    |               |
| ②論議で話し合った意見を整理し、全体で意見交換をする。                                                                                          |     |    |               |
| ③一人一人の考えや根拠について、妥当性の観点から判断していく。                                                                                      |     |    |               |
| ④それぞれの時代の特色をまとめる。                                                                                                    |     |    |               |
| ⑤本時の学習を振り返る。                                                                                                         |     |    |               |
| 2. 見取りをとするための活動                                                                                                      |     |    |               |
| 【見取りについて】                                                                                                            |     |    |               |
| 「歴史」「生活」「国語」「社会」など、イラストの中にある視点を根拠に、「～があるからこの時代が新しい時代である」と一人一人にノートに書かせる。全員が最低1つ以上の視点を挙げて記述することができる。                   |     |    |               |
| 【見取りについて】                                                                                                            |     |    |               |
| 同じ視点を根拠にしても、判断が異なっている状況があった。「歴史」「地理」である。その際、同じ視点を根拠に異なっても、全体での意見交換で、視座の意見交換を促すようにした。どの視点をとっても、「新市時代」の方が新しいという結論に至った。 |     |    |               |
| 【見取りについて】                                                                                                            |     |    |               |
| 視点から判断を間違えても、全体交流で修正できたことを書いていく子が多かった。                                                                               |     |    |               |
| 評価                                                                                                                   |     |    |               |
| 全員が自分の考えをもち、解決できた。相手に伝えることができた。                                                                                      |     |    |               |
| 評価                                                                                                                   |     |    |               |
| （35 / 38人 → 100%）                                                                                                    |     |    |               |
| （児童達成率）                                                                                                              |     |    |               |
| 教科・単元                                                                                                                | 取組② | 教科 | 単元「学級討論会をしよう」 |
| 1. 主な学習活動                                                                                                            |     |    |               |
| ①学級討論会の進め方や役割分担について理解する。                                                                                             |     |    |               |
| ②第1回テーマ「大人になって自立するのは、異議より国語である」について、立場を明確にして、自分の考えを書く。→ 役割分担に沿って、第1回学級討論会を実施する。（学級全体）                                |     |    |               |
| ③第2回学級討論会の実施をする。                                                                                                     |     |    |               |
| ④第3回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                               |     |    |               |
| ⑤第4回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                               |     |    |               |
| ⑥第5回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                               |     |    |               |
| ⑦第6回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                               |     |    |               |
| ⑧第7回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                               |     |    |               |
| ⑨第8回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                               |     |    |               |
| ⑩第9回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                               |     |    |               |
| ⑪第10回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ⑫第11回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ⑬第12回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ⑭第13回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ⑮第14回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ⑯第15回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ⑰第16回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ⑱第17回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ⑲第18回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ⑳第19回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㉑第20回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㉒第21回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㉓第22回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㉔第23回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㉕第24回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㉖第25回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㉗第26回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㉘第27回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㉙第28回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㉚第29回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㉛第30回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㉜第31回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㉝第32回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㉞第33回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㉟第34回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㊱第35回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㊲第36回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㊳第37回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㊴第38回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㊵第39回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㊶第40回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㊷第41回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㊸第42回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㊹第43回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㊺第44回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㊻第45回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㊼第46回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㊽第47回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㊾第48回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㊿第49回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| ㊿第50回学級討論会の実施をする。（号外ごと）                                                                                              |     |    |               |
| 評価                                                                                                                   |     |    |               |
| 全員が自分の考えをもち、解決できた。相手に伝えることができた。                                                                                      |     |    |               |
| 評価                                                                                                                   |     |    |               |
| （31 / 38人 → 81.6 %） 学級討論会での考えの伝わりまで求める                                                                               |     |    |               |
| （児童達成率）                                                                                                              |     |    |               |